

産学連携支援へ助成に力

金沢市には機械や食品、繊維などの産業が集まり、特定分野の市場で全国一のシェアを誇るニッチトップ企業が育っている。こうした企業を研究開発を軸にして、競争力をより強くするため、市は大学との産学連携の促進や、成長性が高い医療や福祉、環境分野向けの開発支援に力を入れている。
(金沢支局長・市川哲寛)

金沢市

生産の海外シフトや国内市場の成熟で企業間の競争は一層激しくなっている。こうした厳しい環境でも企業が成長するには、研究開発が不可欠だ。金沢市は2005年度に新製品や新技術、新システムなどの開発経費の一部を助成する制度「新製品・デザイン開発促進事業助成制度」を設置した。

金沢市とその周辺地域には金沢大学や北陸先端科学技術大学院大学、石川工業高等専門学校などの高等教育機関が集積している。この環境を生かしてもらうため同制度では、産学連携での案件は助成限度額を500万円

と、企業単独の案件より高く設定している。さらに企業単独の案件や08年度に開設した企業同士連携の案件では助成期間が

境など今後の成長が見込める分野を重点分野に指定。重点分野以外の案件に比べて補助率や限度額を高めた。産学連携での

また、12年度に医療や福祉、環境など分野を重点分野に指定。重点分野以外の案件に比べて補助率や限度額を高めた。産学連携での

入門編のセミナーでは大学の産学連携窓口の紹介や、助成制度の書類の書き方などを講義する。新製品や新技術の開発だけでなく、生産効率や加工精度の向上などにも教育機関のノウハウが活用できることを案内し、企業と大学のつながりを深める。

「医療・福祉・環境」後押し

金沢市は15～19年度の

企業の固有技術や立地環境を最大限生かして産業を振興する金沢市。長谷進一経済局ものづくり

産業支援課長に意気込みを聞いた。研究開発を重視する狙いは。

どのような成果が出ているのか。中核市では珍しく高

「風力発電機付きの防風柵や消化器系がんです

た。金沢美術工芸大学と連携して太陽光発電装置向け監視システムのモニター画面のデザイン開発に取り組んだ例もある」

独自技術生かし競争力

「市内には独自技術を持つ企業が多い。こうした技術を生かした自社製品開発や高付加価値化で激しい競争を勝ち抜いてほしい。研究開発

規模だ」

「産学連携のイロハが

未来を築く
地域発イノベーション



「市内には独自技術を持つ企業が多い。こうした技術を生かした自社製品開発や高付加価値化で激しい競争を勝ち抜いてほしい。研究開発

金沢市経済局
ものづくり産業支援課長

長谷 進一氏

「産学連携のイロハが



大学などの重点分野であれば限度額を1000万円、最長3年間助成を受けられる。助成制度全体では毎年59件、2000万円3000万円の規模で助成している。このうち産学連携は件数ベースで3、4割、金額ベースで6割程度を占める。14年度からは産学連携を活発にするために入門編の実施を決めた。